

ちば里山新聞

(第12号)

編集 発行 ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 電話 0438-62-8895
 題字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

みどりと里山の県 ～ちば～

現在、千葉県では「エネルギーフロントランナーちば推進戦略」や「(仮称)生物多様性ちば県戦略」など、千葉県の自然や生き物の豊かな環境を守るための活動を強力に推進しています。

この活動の提唱者である堂本暁子千葉県知事に千葉の里山についての想いを寄稿いただきました。



堂本暁子千葉県知事

「千葉の色は？」と聞かれたら、迷うことなく、「みどり」と答える。

みどりが多いからではない。みどりの濃淡が美しいからである。特に、夏に向かっての季節は、淡いみどり、明るいみどり、深いみどりと、変化に富んだ模様を織りなしている。稲も、天に向かって一本一本のみどりが最もあざやかな季節である。畔にはタンポポやアザミ、水草など、可憐な花々がそっと咲いてもいる。田んぼのかなたに丘陵が続き、南斜面には農家の屋根が点在する田舎の原風景がそこにある。

そして、ほとんど雪の降ることのない房総半島では、時間により、季節により、このようなみどりを土台とした景色が続いてきた。

こうして縄文の昔から、人々が眺め、暮らし、そして作り上げてきた景色なのだろうが、最近では、そうした景色が少しずつ壊れ、変わり、減ってきた。そして、いつの頃から、その景色に「里山」という名前が付き、その名前とともに、みどりの景観を人々は意識するようになった。

江戸時代から、「里山」という言葉が使われていたとの報告もあるが、この「ちば里山新聞」というタイトルの中でも使われているような意味での「里山」という言葉が爆発的に使われるようになったのは、京都大学の四手井綱英先生が最初とも、また、「里山物語」という写真集で有名になった今森光彦さんが最初だとも言われている。

しかし、誰が最初にその言葉を使ったのかではなく、なぜ、今、里山・里海がこれだけ注目を集めるようになってきたのかが重要である。

林業のための森林ではなく、また、信州や東北地方あるいは北海道にあるような奥の深い原生林とも違って、里山は人々の生活の場であり、人が大事にしてきた森にほかならない。

特に千葉県は、そういう意味では、山のすべてが里山だと言っても過言ではないほど里山が多い。だから千葉県に住む私たちにとっては、里山こそが大事な森であり、林なのである。

昔から、自然の循環をうまく活用することに日本人は長けていた。また、身の周りには変化に富んだ自然を生活文化の基礎としている。春になればウドや蕨を採集し、山椒の実や葉を香料に使い、畑の周りに植えたシソの葉で梅干を漬ける味わい豊かな食の文化もここから生まれている。料理ばかりではない。衣服、家具、芸術にいたるまで、自然の多様性を映して作り上げられてきた。

人々の多様な感性と自然の相関関係でもあったであろう。おそらく、生まれたときから、子どもたちは自然に依存し、自然を活用する営みの中で自然を相手に育ち、精神文化の装置としても多様な自然は重要な役割を果たしてきた。

そして今、里山が急速に失われ始めたときに、私たちは心のふるさとを失い身を切られるような、また、よって立つ基盤が突き崩されていくような、そんなことを感じて、「里山」という言葉を繋ぐ使ったようになったのではないだろうか。

今森光彦氏は「里山物語」の中で、「人間を拒む原生の自然とは違った、もう一つの自然があるとしたら、それは肥えた体臭を発する土地のことを言うのだろうと思う。研ぎ澄まされた荒々しい自然ではなく、光の交差する人間の生活の中に奏でられる暖かな自然である。」と述べている。

セメントだらけの景色は寒い。里山には、人と自然との営みを抱え込むような自然の暖かさがある。

1,000名参加!

第4回 里山フェスティバルの開催状況

※ 今年の里山フェスティバルは昨年と違って、とっても良い天気でした。お疲れさまでした。



1. 北総やまとの森で森林整備と竹炭づくりコース
(香取市5/12)



2. 丸々1日山武林業体験コース
(東金市5/13)



3. おんだら山で里山づくりと上総掘りに挑戦コース
(南房総市5/20)



4. 都市近郊の里山で竹林整備と谷津田観察コース
(千葉市5/26)



5. 印旛沼水源域で里山づくりと酒造見学コース
(酒々井町5/27)



6. 養老渓谷で里山づくりとハイキングコース
(大多喜町5/27)



里山シンポジウムの一コマ (各分科会の紹介)
(東金市 5/19)

里山フェスアンケート結果

(※150名の方から回答を得ました。)

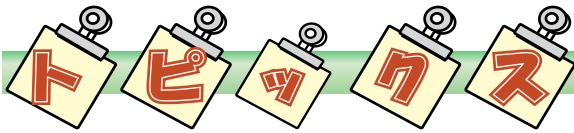
参加者は男性が3分の2を占め、年代では50～60代の方が68%を占めました。

県民だよりで知った方が67%、ちば里山新聞11%、友人などから知った方が7%でした。

コース選定理由は、内容48%、日程20%、開催地域16%などでした。

また、内容やプログラムで好評だったのは、植樹や下刈りなどの里山作業体験、自然散策、竹・わら細工でした。体力的にはちょうど良い78%、もの足りない14%でした。また、90%以上の参加者が来年も里山フェスティバルに参加したい、これを機会に里山活動に参加したいとの回答がありました。

さらに地元の方やスタッフへの感謝・ねぎらい等の言葉を沢山いただきました。



～ちば里山センターの出来事～

北総里山倶楽部始動

平成18年度に当センターが実施した「みんなで楽しく里山活動」の参加者と実習地の成田市倉水の森を活動地として、新たな里山活動団体を立ち上げるようになりました。

研修会の成果を生かし、さらに高度な技術を身につけ、里山活動を行いたいという参加者の意識は高く、4月8日(日)、新たな里山活動団体「北総里山倶楽部」が結成されました。当日は、みんなでくつろぐ広場に使用する丸太の椅子や簡単なテーブルづくりなどを行いました。

現在、毎月第1、3日曜に活動を行っております。その様子は北総里山倶楽部のホームページ(<http://blog.livedoor.jp/beautifulskyforest/>)に掲載されています。

問い合わせは、黒沢（電話：047-457-9510 メール：seietsu@yahoo.co.jp）まで。



佐久間隆義市原市長を囲んで記念写真

て、木の根っこやフジつると格闘しながら大きな穴を掘り、ツツジやアジサイなどの苗木を植樹しました。

JACの森植樹祭開催

5月13日(日)、市原市天羽田地先の市原市市有林2.7haにおいて、千葉学習塾協同組合（松浦重雅理事長、加盟塾120）の設立20周年記念事業として、プリントなど多くの紙を使う子供達に、紙の原料である木材を生産する森林（里山）や自然へのいたわる気持ちを育み、森への恩返しと体験学習及び環境保全を目的に、県内各地の学習塾に通う児童・生徒達270名が参加し、「JACの森一里山活動」を開催しました。

当日は、佐久間隆義市原市長にも出席いただき、風薫る五月の里山で、普段の勉強で使用する鉛筆からスコップやクワに持ち替えて、

ちばテレビ取材

6月13日(水)、いちほら里山クラブ並びにちば里山センターがちばテレビの取材を受けました。日頃の活動等を紹介し、6月23日(土)の22時より放送されました。（写真は金親会長とアナウンサーの佐藤さやかさんです）



平成19年度

ちば里山センター通常総会報告

19年度通常総会



金親会長あいさつ

会）の後任に小川多喜二氏（同）、広瀬修二氏（千葉県森林組合連合会）の後任に小野田典生氏（同）とする案が出され、質疑の後、全提出議案が賛成多数で可決されました。

さらに、県農林水産部みどり推進課の黄野室長より「千葉県の里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」の一部改正に関する意見募集についての説明があり、出席者から活発な質疑がありました。終了後、交流会が催され、新会員の紹介等があり、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。

7月1日(日)、ちば里山センターにおいて平成19年度通常総会が開催されました。

平成18年度事業報告・収支決算並びに平成19年度事業計画・収支予算、運営委員の退任に伴う後任についての議題が話し合われました。

平成18年度の事業報告では企業への里山活動支援や海外や他県からの視察等の報告、平成19年度事業計画では1日活動体験・技術指導を里山団体の活動地で行うこと等が執行部より提案されました。

また、運営委員の退任に伴う後任人事については、所英亮氏（桜宮自然公園をつくる



交流会の様子

会員団体紹介

船橋里山の四季



原木しいたけ植菌作業の様子（平成19年3月1日）

私たちの「船橋里山の四季」は、平成17年に船橋市が主催した森林の学校「森林整備養成講座」「森林学校9」の受講生25名のうち、19名の有志で設立した団体です。

設立1年目は、関係機関の皆様のご指導やご協力をいただき、里山活動の初歩から勉強しながらの活動でした。

2年目の平成18年度は、県立「船橋県民の森」に隣接した2ヶ所の雑木林に里山活動協定を締結しました。

地形は共に平坦で長方形、合わせて21,203㎡の面積があり、県民の森から地下水が湧き出し、それが白幡川の小さなせせらぎとなり、境界にもなっています。

当初、この森はクヌギ、コナラ他、全体にアズマネザサで覆われて、入ることも容易ではない状況でしたので、まず、調査のため全周と中心部に幅1.5m、全長1,300mの道づくりの除伐を開始しました。

この道が完成した後、8月頃から本格的な下刈（除伐）を始め、12月上旬には鳥類などのために残した一部の藪を除き、当初計画しました10,000㎡がほぼ終わりました。

この間、森の中心部に会員の憩いの場所となる休憩広場をつくり、秋の山の幸であるあけびの棚づくりなど行いました。

この森には山桜が10本、こぶし20本、ふじ、もみじ等があり、活動日の昼食後に花見や山野草などの自然観察を行い、四季を全員が感じ、楽しんでいます。

最近では近隣の住民の方から、「明るくきれいな森になりましたね。」との言葉をいただくようになり、皆様にも、利用して楽しんでいただける里山になってきたのではないかと考えています。

また、原木しいたけを栽培するため、クヌギやコナラなどを伐採し、今年の3月に約90本に接種（写真）し、仮伏、本伏を行いました。管理しながら、来年の秋のしいたけの発生が楽しみです。

今年の計画はもう1箇所の雑木林（5,000㎡）の除伐と、新たにアンデルセン公園の隣接地の「教育の森」（3ヶ所、9,168㎡）に里山活動協定を締結しましたので、この内5,000㎡の竹林（真竹や雑木）を「教育の森」にふさわしい整備が出来ればと考えております。

会員の健康と楽しみ、そして少しでも皆様のお役に立てばとの考えで活動していきますので、今後とも皆様のご協力をお願い致します。（文：中川武）

船橋里山の四季の概要				
代表	設立年月日	会員数	活動地	活動日
中川 武	平成17年 5月28日	20人	船橋市北部 (大神保町、豊 富町、金堀町)	第1木曜
				第2日曜
				第4土曜

52件登録!

里山情報バンクの紹介

活動団体
募集中!



遠景写真



林内の状況写真

◆ 里山情報バンク整理番号02-05-02

場所・面積：成田市船形

（JR成田駅西口から車で10分、約4km）約2.38ha

内容：現地は北、東、南側に道路に囲まれた、北側に面した緩やかな斜面林（平坦：5%、10度：90%、20度：5%）

斜面上部に約70アールの40～50年生のスギ、

その他は20～30年生の広葉樹と竹林となっている。

竹林は、平成15年に伐採し、その跡地には桜を植栽してあるが、現在では、かなりササが繁茂している。

所有者は、全面積の継続管理を希望し、竹やササが密生している斜面中～下部については伐採後、桜の植栽を希望している。

（駐車場、トイレ、水道等については森林所有者と要相談）